

| | |
|---------|---|
| 氏名 | 佐藤正和 |
| 授与した学位 | 博士 |
| 専攻分野の名称 | 医学 |
| 学位授与番号 | 博甲第 4410 号 |
| 学位授与の日付 | 平成 23 年 9 月 30 日 |
| 学位授与の要件 | 医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当) |

学位論文題目 Association between the expression pattern of p16, pRb and p53 and the response to intravesical bacillus Calmette-Guerin therapy in patients with urothelial carcinoma in situ of the urinary bladder
(膀胱尿路上皮内癌患者の p16, pRb および p53 の発現様式と BCG 膀胱注入療法に対する応答との関連性)

論文審査委員 教授 公文裕巳 教授 清水憲二 准教授 荻野哲也

学位論文内容の要旨

膀胱尿路上皮内癌(CIS)患者の初回 BCG 治療に対する応答と、臨床病理学的事項、細胞周期 G1-S 期移行に関連する分子である p16, pRb および p53 発現の関係を免疫組織化学的手法を用いて検討した。27 人の患者のうち、p16, pRb および p53 の過剰発現は、それぞれ 37%, 41%, 48%にみられた。初回 BCG 治療は 21 人の患者(78%)に有効であった。共存する乳頭状尿路上皮癌の有無、進達度 (pTa または pT1)、組織学的グレードは、初回 BCG 治療の効果に影響しなかった。また、p16, p53 の過剰発現と初回 BCG 治療の効果に相関はなかったが、pRb の過剰発現を示す患者は BCG 治療に対する反応が不良であった (P=0.027)。

本研究の結果、pRb 過剰発現を示す膀胱 CIS の患者は BCG 治療が奏効しにくいことを予測することが可能であり、治療方針の決定に影響を与えうる因子であることが明らかとなった。

論文審査結果の要旨

本研究は、膀胱上皮内癌(CIS)患者の初回 BCG 治療に対する応答と臨床病理学的事項、細胞周期 G1-S 期移行に関連する分子である p16, pRb および p53 発現の関係を免疫組織化学的手法を用いて検討したものである。その結果、27 人の対象患者のうち、それぞれの過剰発現は 37%、41%、48%に見られ、初回 BCG 治療は 21 人 (78%) で有効であった。p16, p53 の過剰発現と初回 BCG 治療の効果に相関はなかったが、pRb の過剰発現を示す患者は BCG 治療に対する反応性が有意に低下していた (P=0.027)。pRb 過剰発現が膀胱 CIS に対する BCG 治療の不应性を予測しうることを示した価値ある業績と判断される。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。